

# 薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！  
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2021年  
11月10日  
第125号

## バンジロウ（フトモモ科）

園、北門から入って左側、ナンキンハゼの下にある低木で、ヘソの割れ目に特徴のある緑色の果実が見られます。カリブ海沿岸、中央アメリカ、東南アジアなどで自生している果樹で、英語名がコモングアバ、果実がグアバという名で食用とされ、ジュースとしてもよく加工されています。果実に強い香りがあり、白または橙色の果肉の中には固いたくさんの小さな種子があります。ビタミン類が豊富で、桃を酸っぱくしたような味と私は感じました。葉に含まれるポリフェノールが、食後高血糖を抑制するという健康食品にも利用されています。中医学では、果実、葉を、それぞれ番石榴果（ばんせきりゅうか）、番石榴葉（ばんせきりゅうよう）という名の生薬として利用し、前者が止瀉・止血、後者を燥湿健脾・清熱解毒を目的に使用されるそうです。

## シャリンバイ（バラ科）

北門から入って右側、ネズミモチの生垣の間から、黒い果実が顔を覗かせています。東北南部以南の海岸沿いに分布し、街路樹や公園樹、庭木として各地で植栽されています。葉が枝の先端部に集中してつき、車輪状に付くことからこの名があります。果実は青臭くて口にすると気になりませんが、物好きな友人が食べたところ、微かな甘味を感じたと言っていました。日本の民間薬では、葉の煎液や潰して得た汁を腫れ物や打撲痛に外用するそうです。鹿児島県奄美大島では、樹皮や根、材を煮出して調製した浸出液を、大島紬の染料として使用しています。絹糸と、タンニン類と奄美大島の泥水に含まれる酸化鉄(III)との反応で、さまざまな色彩が生み出されるそうです。